文部科学省検定済教科書　小学校道徳科用　17 教出　道徳 613

小学 道徳 6

はばたこう明日へ



教育出版

33 ベトナムの人に安全な水を



日本では毎日、水道から出る水をあたりまえのように飲み水として利用していますが、世界には安全な飲み水を得るのにとても苦労している地域が、まだまだたくさんあります。

ベトナムのフエ市に住むミンちゃんは、学校から帰ってきてからずっと水道の蛇口を見つめていました。今日フエ市では、水道水を直接飲むことができる「安全な水宣言」が出されたのでした。お母さんが「もうだいじょうぶよ。」と言いました。ミンちゃんは、自分のコップを蛇口の下に置き、どきどきしながら蛇口の栓をひねりました。蛇口から出た水は、見るまにコップを満たしていきます。ミンちゃんは、コップを手に取りごくりとひと口飲みました。「なんておいしい水なの。」ミンちゃんは、今まで飲んだ中で、いちばんおいしい水だと感じました。



フエ市は、歴史のある町で、豊かな水源もあったため、水道も早くから整備されていました。しかし、飲めるほどきれいな水ではなかったため、洗い物に使ったり、料理には加熱して使ったりしていました。フエ市の人々は、「水道の水が飲めるようになったらどんなにすてきだろう」と思っていました。

水道を管理するフエ省水道公社は、二〇〇九（平成二十一）年に創設一〇〇周年をむかえた歴史ある水道公社です。職員たちも、水道で飲める水を供給できたらどんなにか市民が喜ぶだろう、と思っていました。この願いの実現に協力したのが、神奈川県横浜市水道局です。

横浜市水道局は、二〇〇三年、JICA（独立行政法人国際協力機構）横浜と連携して、現場レベルでの技術協力事業を開始しました。そして、ベトナムのフエ市とホーチミン市から、研修員を受け入れたのです。

このとき、フエ省水道公社から派遣され、横浜市で研修を受けた職員がフエ市にもどり、横浜市の水道事業の質の高さを伝えました。フエ市は、改めて水道事業改善の協力いらいを横浜市水道局に行い、両市は、より深い関係をもつようになっていきました。



水道局からフエに派遣された職員は、水道水が安全に飲めることを目ざし浄水のしかた、水質検査、殺菌などの技術を教えるだけでなく、フエの人が自ら管理し、運営できるよう人材育成も行いました。

中でも、いちばん大切に考えたのが、自分たちが帰ったあとも、フエの人たちだけで水道事業の運営を行えるようにすることでした。技術の伝達は、技術者どうしでなんとか伝えることができました。でも、新たな問題が起きたとき、今のフエの人たちだけでは、まだ解決できそうにありません。自分たちにたよることなく、フエの人たちだけで水道事業を運営していけるように、今まで研修したこと、想定できる問題点とその解決方法などをマニュアルにすることを提案しました。最初は、約束の時間に集まらなかったり、前回出された宿題をやってこなかったりと、文化のちがいもあり、なかなか前に進みませんでした。横浜市のもっているマニュアルをベトナム



公園で水を飲む少年たち



できあがったマニュアル

語に訳してわたすことは簡単です。でも、それでは、フエの人たちで運営していくことにはなりません。自分たちで問題点を考え、自分たちで導き出した解決方法をマニュアルにしなければ、本当の運営とはいえません。水道局の人たちは、時間をかけ根気よく、フエ市の職員と会議を重ね、フエ市の職員によるフエ市の水道のためのマニュアル作りを進めました。

その結果、浄水場の改良など技術的な協力と、マニュアル作りをとおした人材育成が実を結び、ついに二〇〇八年、フエ省水道公社は「安全な水宣言」を出し、ミンちゃんがおいしい水を飲むことができたというわけです。

今では、宮殿前の広場や空港のロビー、公園にある公共の水飲み場で、安全な水を口にすることができます。吸水口の近くには、日本のこうけんを示すようにJICAのネームプレートがうめこまれています。

私たちの身体は、約六〇パーセントが水分です。そのうち二〇パーセントがなくなると生命の危険にさらされるといわれています。体重六〇



水飲み場のネームプレート

キログラムの成人男性の場合、一日に約二・五リットルの水が必要で、そのうち約半分を飲料水からとる必要があります。

安全な飲み水は、私たち人間が健康に暮らしていくために、なくてはならない大切なものです。横浜市だけでなく、日本の多くの自治体が、安全な水が手に入らない国や地域に技術を提供しています。世界中の全ての子どもたちが、安全でおいしい水を飲めるように。

5

編集委員会　作／本田亮　絵

考えよう

- 水道はあるのに飲める水が出てこないことについて、どのように思いますか。
- ★横浜市水道局の人たちが、運営マニュアルをフエ市の人たち自身で作るように提案したのはどうしてなのか考えましょう。

5

深めよう

- 世界の国々と助け合い、国際親善を進めていくために、みなさんができることにはどのようなことがあるでしょう。自分の考えをまとめて発表しましょう。

しっかり考えられた

新しく気づいたことがあった

大切にしたいことがわかった